

独立行政法人平和祈念事業特別基金の平成16事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成されており、独立行政法人評価委員会による平成16年度の総合評価においても「A」評価であったこと等を踏まえ、役員の新任等は行われなかった。
----------	---

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	16事業年度評価における主な指摘事項等	平成17及び18年度の運営、予算への反映状況
業務の効率化	業務の効率化については、展示資料館や各種催事等において入場者数等目標を上回る実績を上げつつ、広報経費等の効率化、外部委託の推進等により経費総額を中期目標で基準とされている平成14年度と比べ17.5%削減(一般管理費については7.9%)しており、中期目標達成に向けて十分な成果だったものと判断する (総務省評価委員会評価)	<p>戦後60年余を経過した今日、関係者の労苦が時日の経過とともに風化していくことを防ぎ、後世に語り継ぐため、17年7月に展示資料館のリニューアルを行い展示資料の充実を図るなど引き続き労苦継承事業の一層の充実をめるとともに、外部委託の推進等により経費総額を削減。</p> <p>17年度執行額(対前年度) 18年度計画額(対前年度) 1,695,060千円(△42,941千円) 1,607,941千円(△87,119千円)</p>
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	事業の実施等については、①関係者の高齢化・資料の散逸等により関連資料の入手が困難になる状況のなか、ロシア連邦共和国及びモンゴル国の公的機関における関係資料の所在調査を行い、今期初めてモンゴル国から戦後強制抑留関係の映像資料を入手したこと、②常設の展示資料館や各種催事等において、目標を大幅に上回る入場者を確保していること、等から中期目標達成に向けて十分な成果だったものと判断する (総務省評価委員会評価)	
財務内容の改善	財務内容の改善については、運用資金を、「運用方針」等に基づき適正に管理・運用し、年度計画予算を上回った運用収入を確保しており、中期目標達成に向けて十分な成果だったものと判断する (総務省評価委員会評価)	
業務運営の改善その他の提言等	今期の業務運営等については、十分満足のいくものと認められるが、今後とも外部委託等の活用及び組織の弾力的運用により効率的な業務運営に努めていくことを期待する。 (総務省評価委員会評価)	